2023年8月27日
第1回埼玉県地域クラブ活動シンポジウム

地域クラブ活動の充実に向けた環境の一体的な整備

文教大学人間科学部教授
日本財団ボランティアセンター参与
二宮　雅也

さいたま市女子サッカーの場合

- 2022年度の県内の女子選手登録者は小学生994人、**中学校361人、**高校生928人。

↓

市内公立中学校全てに男子サッカー部があるのに比べ、女子サッカー部はわずか２校

このままでは・・・

クラブチーム（費用がかかる）
男子サッカー部に入る（出場機会の減少）

地域のスポーツ資源

三菱重工浦和レッズレディース
大宮アルディージャVENTUS

との連携

クラウドファンディングによる資金調達

中学生年代女子サッカー合同練習会「スマイルプロジェクト2023」

部活動だけが課題なの？

部活動の地域移行に関する議論をきっかけに、
もう一度子どもたち、私たちの活動環境について考えてみませんか？

生涯にわたり本当にやりたいことができる環境の作り方

何らかの理由で、部活動が中止になった時に喜んでいる生徒がいるのも現実・・・

新しくはじめたいこと、内容を極めたいこと、サイズダウン（習い事との両立）、
競技力向上、みんなが試合にでることができる、卒業してからも、・・・

部活動の地域移行（連携）のイメージ

ー結論を急ぐのではなく、色々な可能性を模索することが大切ー

民間団体

競技団体

総合型地域スポーツクラブ

大学

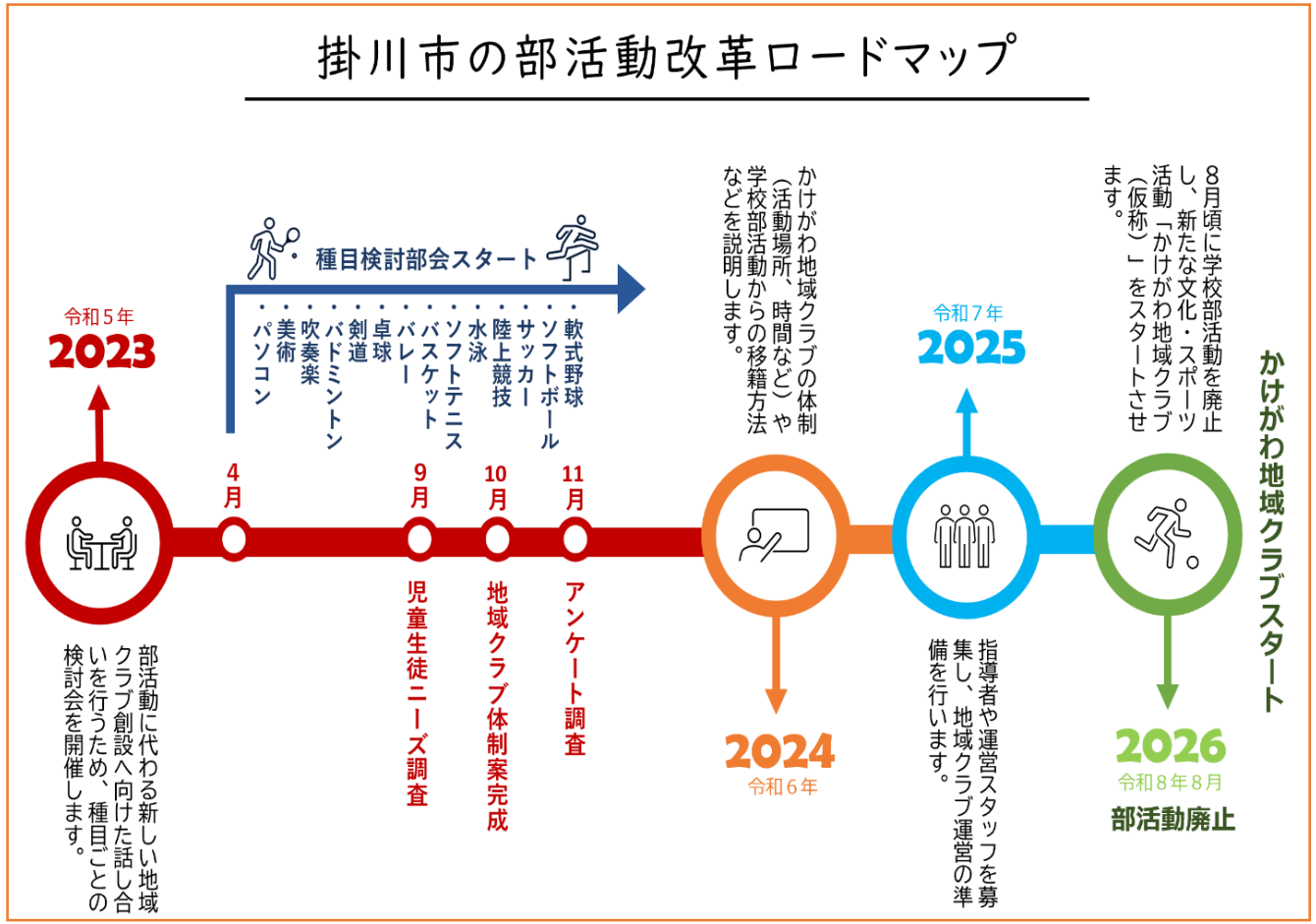
その他

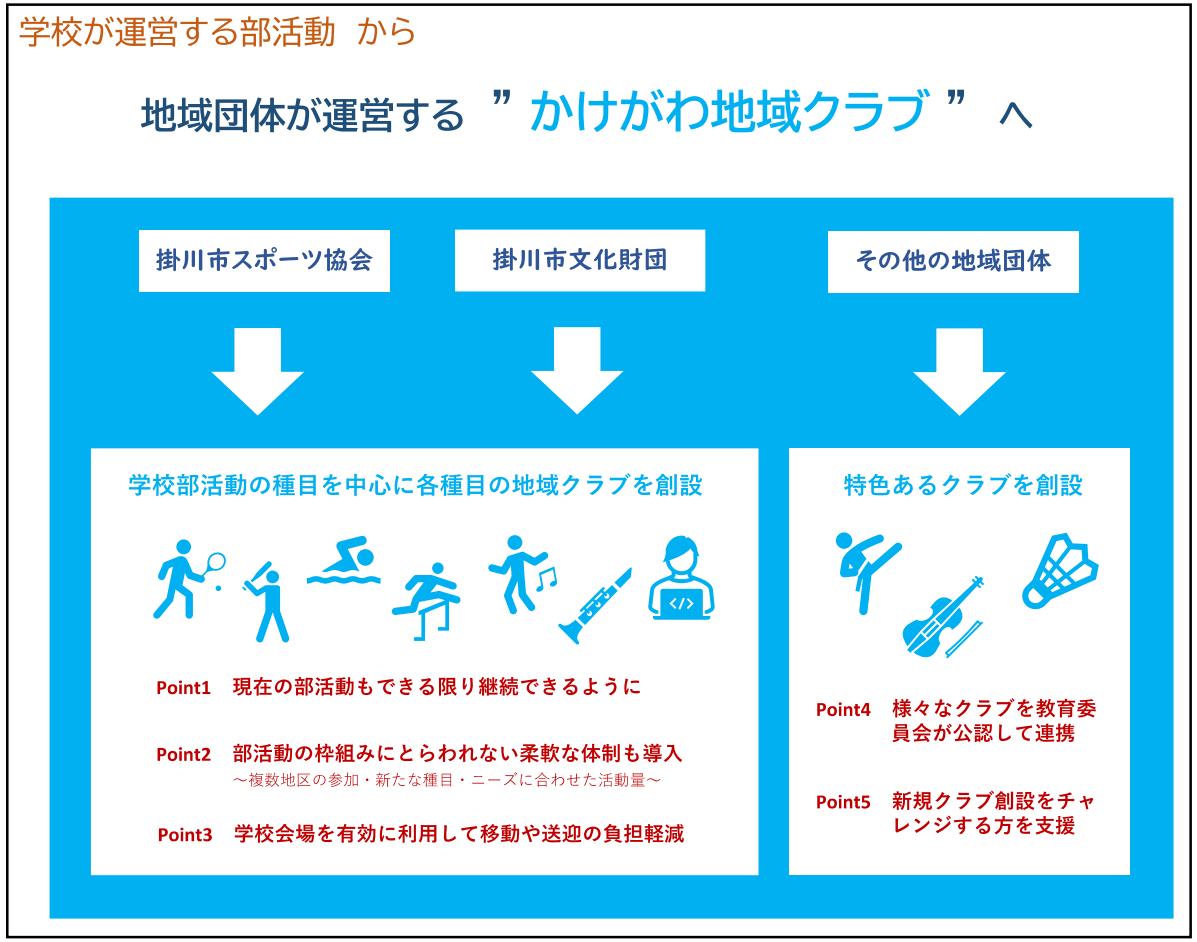
連携

移行

市町で統一した形で行うのか、中学校ごとに移行（連携）するのか、各部活の種目ごとに移行（連携）するのか？

例：静岡県掛川市の場合





資料：掛川市HPより

部活動地域移行に対する教員の考え方

「中学校部活動の地域移行に関するアンケート」を実施したところ、小中学校教職員の7割以上が「報酬が支払われても地域クラブ活動に関わりたくない」と回答（Y市調査）

学校部活動を地域クラブ等が担うことになった場合、ご自身が地域の指導者として関わりたいと考えますか。いいえ75％、はい25％（H市調査）

休日の部活動が「地域移行」された場合、指導への関わりについて（兼職兼業の許可を得て、自身が指導に関わりたい 15.5%、兼職兼業を行うつもりはない 59.8%、 兼職兼業を行うかどうか、悩んでいる 24.7%）　（T市調査）

これまでの部活動が、教員が勤務時間外にほぼ無償で指導する、
「いびつで無理な形」で成り立ってきたことは再認識しなければならない課題

新たな担い手の確保は必須の課題

部活動指導員

- 部活動指導員とは 学校の教育計画に基づき、生徒の自主的、自発的な参加により行われるスポーツ、文化、科学等に関する教育活動である部活動において、校長の監督を受け、技術的な指導に従事する学校の職員。
- 技術指導や引率だけでなく、「用具・施設の点検や管理」「部活動の管理運営（会計管理など）」「保護者などへの連絡」「年間・月刊指導計画の作成」「生徒指導にかかる対応」「事故が発生した場合の現場対応」なども担当。

- 外部指導者との違い＝学校外活動の引率が可能

- 例：さいたま市の場合（時給１，１９６円～１，５０３円）

地域連携・・・想定される課題も

- 部活動指導員、外部指導者の専門性が優位すぎる
- 学校長よりも立場が上と勘違い
- 保護者から厚い依頼を受け指導を始める

↓

- 生徒を罵倒（感情的）＝アンガーマネジメントができない
- 結局は指導者を変えてくれと保護者から相談

その他、性的ハラスメント、学校（教員）とのミスコミュニケーション、守秘義務、責任放棄・・・

スポーツ少年団からの展開　ー長期的視点ー

Q 少年団には何歳から何歳までの人が入れますか？

A 加入は原則として小学生以上となっています。それ以上であれば、スポーツが得意な子どもだけでなく、運動が苦手な子でも男女問わず大歓迎です。もちろん、中学生や高校生の加入も可能です。現在、中学生以上の団員は約10万人。その中には、スポーツを楽しみながら団員のリーダーとして活動し、将来の指導者を目指す人もいます。

資料：日本体育協会（現：日本スポーツ協会）スポーツ少年団パンフレットより

長期的な視点で地域連携を構築する

小学校の頃に少年団でスポーツをしていたイメージを中学生になっても継続する。

頂点を目指すだけでなく、将来のスポーツ指導者になることをイメージする。

一人のモデルができると、それをイメージして仲間が増える。

生徒の主体性を今こそ

実は、部活動改革が進んでいることを知っている中学生は非常に少ない

当日　動画添付欄

- 生徒がデザインする部活動（生徒会を中心とした議論の場の構築）
- 例：部活動の「ダウンサイジング（規模縮小）」した選択肢もあってもよい
- 塾や習い事とのバランス
- オンラインやICT,AIの積極的な活用

従来のまま地域移行すのではなく、持続可能な形に変えるという視点も必要である

これからの改革に必要な視点（まとめ）

- 子どもたちがスポーツや文化芸術活動に触れる機会を公的に保障してきた部活動は、日本が蓄積した極めて重要な機能である

- そうした良さを活かしながら、これからの社会でも持続可能性の高い改革が必要である

  （例：先生をはじめ一部の人を犠牲にしない）

- 子どもらの考えを生かした改革を

  （例：地域で他校の生徒と一緒に活動したいといったニーズ）

- 学校教育から生涯学習領域への転換（予算措置、地域資源も含めて）

- スポーツボランティアの活用（中体連だけに頼らない、大会、イベントの構築）

- 中長期的な視点で部活動の地域連携を構築する